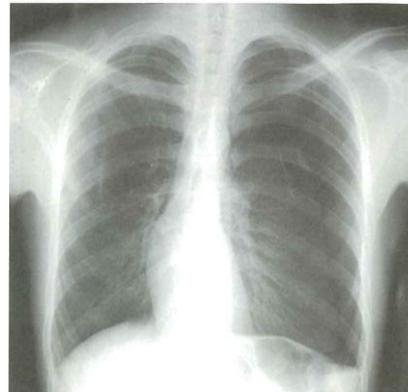


次の文を読み 1～3 の問いに答えよ。

A さん（28 歳、男性）は身長 170cm、体重 55kg である。3 日前に胸痛と呼吸困難が生じた。過去に 2 回、特発性自然気胸を繰り返しており、そのたびに自然治癒していたので、自宅で安静にして様子を見ていた。

- 1 A さんは、呼吸をするたびに呼吸困難がしだいに増強してきたため、受診した。受診時には、吸気性呼吸困難が高度であった。胸部 X 線検査で画像のような所見が確認された。A さんのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 緊張性気胸が生じている
2. 縦隔の左側偏位が生じる
3. 気道は陰圧になる
4. 陽圧換気が必要である



- 2 A さんの自然気胸の病前症状としてみられるのはどれか

1. 肺うっ血
2. 肺塞栓症
3. 肺気腫
4. 気腫性嚢胞

- 3 緊急胸腔ドレナージが行われることになった。胸腔穿刺によって脱気が行われたあと、チェストドレナージバッグによる水封式ドレナージが開始された。

ドレナージ施行中の看護で適切なのはどれか。

1. 吸引圧は 100 c mH₂O に保たれる
2. ドレナージバッグは刺入部より低い位置に保つ
3. 吸引圧制御ボトルの水を定期的に排液する
4. 患者にときどきドレーンを引っ張って位置を整えるよう指導する

次の文を読み 4～6 の問いに答えよ。

Aさん（26歳、男性）は腹痛と下痢が続いていた。会社の健診で白血球数増加を指摘され、精密検査を指示されたため受診した。大腸内視鏡検査と生検の結果、大腸型クローン病と診断された。

4 Aさんは治療のために入院となった。食事療法はエレンタールを経口摂取、薬物療法はサラゾスルファピリジンが経口投与されることが決定した。

入院中の看護で適切なのはどれか。

1. 絶対安静とする
2. 面会謝絶にする
3. 体重測定を行う
4. 不溶性食物繊維を補う

5 Aさんは「エレンタールがまずくて飲めません」と訴えている

1 看護師の最初の対応として適切なのはどれか。

1. 必要なので我慢するように説得する
2. ただちに経管栄養に切り替える
3. フレーバーを変えてみる
4. 空腹になるまで摂取させない

6 Aさんは経過が良好で退院となったが、今後の食生活や治療に不安を訴えている。

不安を傾聴したあとに行う情報提供として適切なのはどれか。

1. 医療費は全額公費負担になる
2. 定期的に通院して静脈点滴で輸液を行う
3. 固形の食品はまったく食べられない
4. 癌化することはまれである

次の文を読み 7～9 の問いに答えよ。

A さん（80 歳、男性）は末期がんの宣告を受け、本人が自宅での最期を希望したために退院することになった。酸素吸入とモルヒネによる疼痛コントロールが行われている。食事はほとんど経口摂取できていない。

7 退院に向けての援助で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 利用する訪問看護ステーションを指定する
2. 急変時の対応について確認する
3. 家族が 24 時間交代で付き添う体制づくりを指導する
4. 胃瘻の造設について説明する
5. 家族へのグリーフケアを行う

8 退院が近づいて、家族が「これで本当によいのでしょうか。入院させたままで最新医療をすぐ受けられるほうが本人にとって苦痛が少なかったのではないのでしょうか」と相談してきた。看護師の最初の対応として適切なのはどれか。

1. 「おうちにいるほうがいいに決まっていますよ」と明るく言う
2. 「どうしてそのように思われるのですか」と話を聞く
3. ただちに入院継続手続きをとる
4. 主治医に相談する

9 退院予定日の前日、A さんの容体が急変してそのまま病院で看取ることになった。臨終の場面で、付き添っている家族が患者の名前を呼び続けている。家族への声かけで適切なのはどれか。

1. 「おつらいでしょうから、待合室で待機してください」
2. 「手を握ってあげてください」
3. 「もう声かけても聞こえていないでしょう」
4. 「葬儀社に連絡はしてありますか」

次の文を読み 10～12 の問いに答えよ。

A ちゃん(5 歳、男児)は突然の嘔吐生じ、 39.0°C の発熱がみられ同時に痙攣が始まった。母親が慌てて病院に連れて行ったところ、病院に着いたことには痙攣はおさまっていた。

10 A ちゃんの痙攣で最も考えられるのはどれか

1. てんかん
2. 小児麻痺
3. 熱性痙攣
4. 周期性四肢麻痺

11 項部硬直がみられ、腰椎穿刺が行われた。髄液検査の結果、無菌性髄膜炎と診断された。A ちゃんに行われた検査で正しいのはどれか。

1. 枕をはずして腹臥位にする
2. 穿刺部位は第 1～2 腰椎間である
3. 検査後は飲食禁である
4. 検査後は水平臥床とする
5. 髄液はキサントクロミーである

12 入院 3 日で解熱し、退院となった。母親が「もう帰っても大丈夫なんでしょうか」と心配している。A ちゃんの今後についての説明で正しいのはどれか。

1. 1 週間くらい家で安静にする必要がある
2. 重篤な後遺症を残す
3. 死亡率が高い
4. 再発を繰り返す

次の文を読み 13～15 の問いに答えよ

A さん (34 歳、初産婦) は銀行員をしている。本日、妊娠 10 週 0 日である。身長 155cm、体重 48kg で、非妊娠時より 2 kg 減少している。尿ケトン (-)、Hb12.0 g / dL、Ht40% である。

13 「炊きたてのご飯のにおいを嗅ぐと気持ち悪くなって吐いてしまいます。がんばって食べようと思ってもだめです。水分はなんとかとっています。果物だったら少しは食べられますが、こんな状態ではおなかの赤ちゃんに栄養が行かないと心配です」と話している。A さんに対する助言で適切なのはどれか。

1. 入院したほうがよい
2. 毎日仕事帰りに点滴に通うとよい
3. 食べられるものを少量ずつ食べるのでよい
4. サプリメントをとればよい

14 この時期の胎児の発育で正しいのはどれか

1. 体長 3 cm
2. 超音波断層法で頭部・体幹・四肢が判別
3. ドップラー法で 100%胎児心音聴取
4. 爪の発生
5. 肺サーファクタントの完成

15 この時期に A さんに行う保健指導で適切なのはどれか

1. 内服薬に関する指導
2. 乳房マッサージの指導
3. 出産用品の準備
4. 呼吸法の練習

次の文を読み問 16～18 に答えよ。

A さん（25 歳、初産婦）は、本日 40 週 3 日である。早朝 4 時ころから臭気 10 分以内の陣痛が発来し、トイレに行くと少量の出血がみられ、午前 5 時に入院した。

16 午前 11 時には、子宮口 6cm 開大、未破水で、陣痛周期は 5～6 分となった。A さんはうとうとしている。看護師の対応で適切なのはどれか。

1. A さんを起こしてシャワーを促す
2. そのまま眠らせておく
3. 気分転換に散歩を勧める
4. 家にいったん帰らせる

17 午後 0 時になって昼食が運ばれてきた。A さんは「あまり食べたくない」と言っている。看護師の対応で適切なのはどれか。

1. A さんが朝から摂取した水分量を確認する
2. 無理にでも全量食べるように言う
3. 繊維質のものだけでもとるように勧める
4. 昼食を片付け、安楽な体位にさせる

18 午後 4 時に子宮口全開大し、その直後に破水した。午後 6 時 30 分に 3,090g の女児を正常分娩した。午後 7 時に胎盤娩出が完了した。

A さんの状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 前期破水である
2. 適時破水である
3. 過期産である
4. 遷延分娩である

次の文を読み問 19～21 に答えよ。

A さん(19 歳、女性)は、昨年高校を卒業したが、希望していた大学の受験に失敗し、浪人させないと親の命令で就職した。就職してからどんどん痩せていき、身長 160 cm で 50 kg だった体重が、1 年間で 38 kg まで減少した。

19 A さんは仕事も休みがちになり、心配した両親に連れられて来院した。外来では静かだったが、入院して両親が帰った後、イライラした様子で、「両親は心配してるふりをしているだけ。私のことなんか勝手に決めつけて気持ちを聞いてくれない」と言っている。A さんに対する看護師の声掛けで適切なのはどれか。

- 1, 「食事はどのくらい食べてますか」
- 2, 「夜は眠れてますか」
- 3, 「何か心配なことはありますか」
- 4, 「ご両親が気持ちを理解してくれないと思っているのですね」

20 入院して 1 週間が経過した。病棟内では落ち着いて過ごし、出された食事もすべて摂取している。体重を測定したところさらに 0.5 kg 減少していた。観察すべき項目で優先度が高いのはどれか。

- 1, 運動量
- 2, 嘔吐の有無
- 3, 睡眠状態
- 4, 月経の有無

21 A さんに対する治療法として効果的なのはどれか。

- 1, 薬物療法
- 2, 集団精神療法
- 3, 脱感作療法
- 4, 電気ショック療法

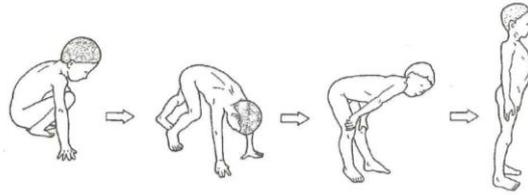
次の文を読み問 22～24 に答えよ。

A くん(10 歳、男児)は、デュシェンヌ型筋ジストロフィーの診断を受けており、車椅子介助で特別支援学校に通学している。A くんは「学校で友達といることが楽しい」と言っている。A くんは、祖母と両親との 4 人暮らしであるが、両親は仕事で帰りが遅いため、週末の休日を除き平日の介護はほとんど祖母が行っている。

22 A くんには、立ち上がる時に右図のような動作が見られている。

A くんに見られているのはどれか。

- 1, 登攀性起立
- 2, 仮性肥大
- 3, アテトーゼ
- 4, 鉗状足



23 A くんは誤嚥性肺炎を起こして入院となった。入院中は経鼻経管栄養が行われている。家族は「退院後はまた口から食べれるようになるんですね。また肺炎にならないか心配です。」と話している。家族への説明で適切なのはどれか。

- 1, 「ご自宅でも同じ栄養法ができますし、ご説明しますよ」
- 2, 「本人に食欲が戻れば口から食べられます」
- 3, 「肺炎の心肺はもうありません」
- 4, 「肺炎が長引けば人工呼吸器の使用になります」

24 退院後、再び通学を開始することになった。通学の解除と家事を担っている祖母の疲労が強くなっている。訪問看護師が訪問すると「孫がかわいくて頑張ってますが、毎日の送り迎えが大変です。私が倒れるわけにはいかない」と、思いつめた表情で語った。訪問看護師の対応として適切なのはどれか。

- 1, A くん施設の施設入所を勧める。
- 2, 仕事を休むよう母親を説得する
- 3, 特別支援学校は週 1 回の通学にする
- 4, 週末に短期入所サービスを利用することを勧める。
- 5, ホームヘルプサービスの利用を勧める。

次の文を読み問 25～27 に答えよ。

A さん(64 歳 女性)は身長 150 cm、体重 68kg である。2 階建ての一戸建て住宅に 1 人暮らしで、趣味の書道と華道を続けている。3 年前より右膝内側に痛みがあり、変形性膝関節症と診断され、手術目的で入院となった。

25 入院後、右膝関節全置換術が施行された。術後の経過は良好で退院が決定した。退院に向けての指導で適切なのはどれか。

- 1, 「正座してもいいですよ」
- 2, 「なるべく自宅で臥床してください」
- 3, 「ベッドでなく布団で寝てください」
- 4, 「長い間歩き続けしないでください」

26 退院後、訪問看護サービスを週 1 回利用することになった。

初回訪問時、A さんの自宅での生活に対して、看護師が行う援助で適切なのはどれか。

- 1, 大腿四頭筋の等尺運動を指導する
- 2, 食事の制限は特にないと伝える
- 3, 室内ではスリッパを履くように指導する
- 4, 階段昇降を積極的に行うとよいと言う

27 1 週間後に看護師が訪問すると、「左膝が痛くなってきたので、動かないようにしています」と臥床していた。触れてみると左膝に熱感がある。訪問看護師の援助として適切なのはどれか。

- 1, 左膝に温湿布をおこなう
- 2, 右膝の関節可動域を強化する
- 3, 左手に T 杖を持って歩くように指導する
- 4, 医師の受診を勧める

次の文を読み問 28～30 に答えよ。

A さん(37 歳、女性)は独身である。短大を卒業してから地元の役所に勤務している。勤務態度は特に問題なく、同僚とのトラブルもなかった。3 か月前に移動になり、残業が多くなった。同時に配属になった新入社員は残業せずに帰っているという。A さんは 1 か月前から疲労感が取れず、夜も不眠であったため、睡眠薬を処方してもらおうと精神科を受診した。

28 A さんは看護師に、「私だけ残業しているのは、私に能力がないからです。わたしのせいで職場のみんなが迷惑しています」とつらそうに言った。A さんの言動に対するアセスメントで最も適切なのはどれか。

- 1, 自己否定感が強い
- 2, 現実逃避している
- 3, 看護師に逆転移起こっている
- 4, 被害的になっている

29 A さんは本人の希望で入院となった。内服薬はセロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)が処方されている。看護師が注意して観察すべき項目で最も危険なのはどれか。

- 1, 食欲不振
- 2, 睡眠状態
- 3, 自殺企画
- 4, 行動障害

30 入院後 1 か月、A さんはよく眠っているのが確認されているが、ほとんどの時間をベッドで過ごしている。主治医から認知療法を開始することが告げられた。A さんは「認知療法ではどんなことをするのですか？私は役に立たない人間なのはよくわかっています。自分が周りの人に迷惑をかけていることを反省するのですか」と不安げに看護師にたずねた。看護師の対応として最も適切なのはどれか。

- 1, 「そのように自分を否定的に考えてはいけません」
- 2, 「役に立たない人間などいないのですからもっと自信を持ちましょう」
- 3, 「A さんの考え方が気持ちにどう影響しているか一緒に考えましょう」
- 4, 「A さんが心の病気になった原因を探します」